

蔵王山安善寺

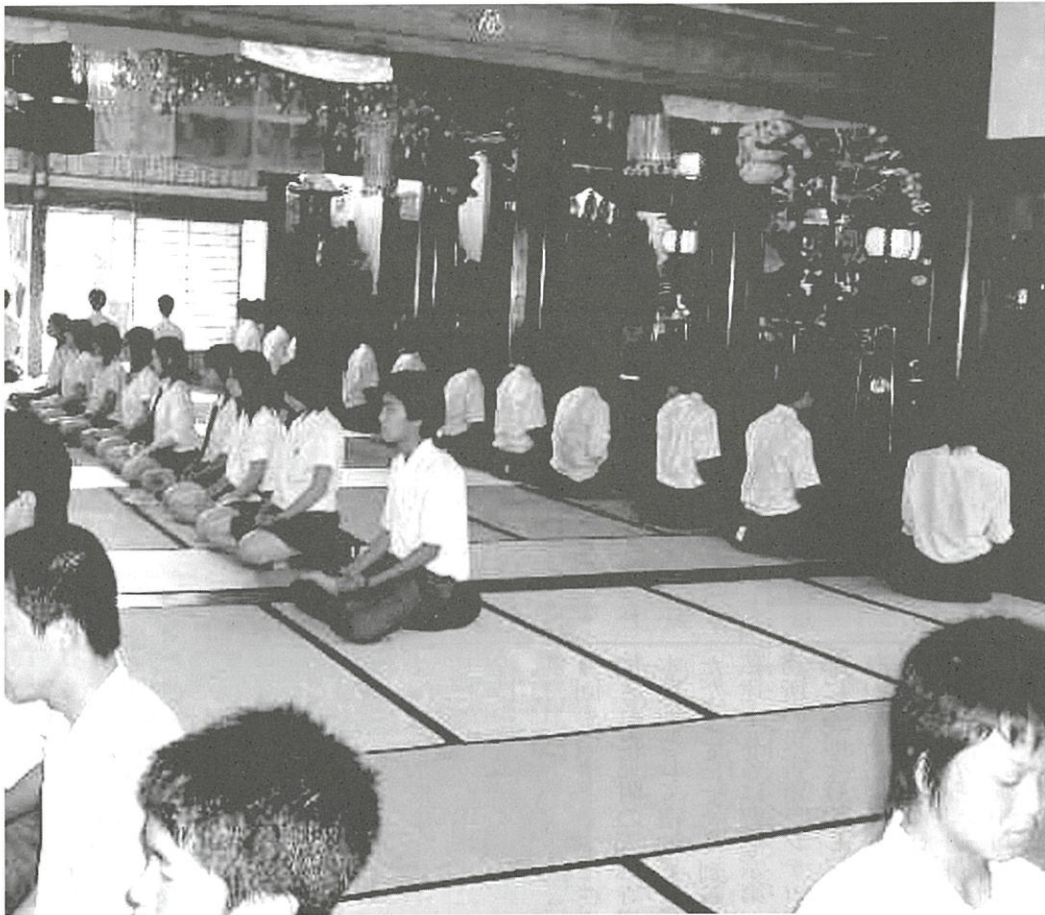
◆編集・発行人◆

近藤龍弘

〒940-0052
長岡市神田町1丁目4番地10
TEL.(0258) 32-2811

◆スタッフ◆

小林国二 小林善秋 高橋潔 加藤由紀子
室賀清輝 近藤マリ子 近藤善信
後援・株式会社アサヒ
印刷・(株)北越時報社



坐禅中の長岡向陵高校サッカー部のみなさん

ご家族の皆さままでご覧ください

こんな時代だから 坐禅をしてみませんか

翠巖龍弘

上の写真は今年の七月八日に安善寺本堂での、県立長岡向陵高校サッカー部の坐禅中のものです。一炷(四十分位)黙々と坐しておりました。

安善寺では基本的に毎週火曜日に朝六時〜七時までの坐禅会を行じておりますが、他に病院関係(月二回)、学校の運動部、会社の研修会、ライオンズクラブ等、又、外国人のグループや個人での坐禅体験希望者も多きたまあります。

聞き及ぶところによりますと、国内はもとよりアメリカ、ヨーロッパでも坐禅希望者が増えているそうです。それぞれの考え、目的があるようですが、只管打坐(ただひたすら坐す)黙ってじっと坐っているのは辛く感じる人が多いのに、何故、坐禅に興味をもつ人が増えているのでしょうか。

現代社会は情報化時代、世界の出来事が瞬時に伝わり、忝慮無しに私共にもたらされます。新聞、テレビを始め、週刊紙、インターネット、広告等々。そんなせいかややもすると情報に溺れ、自分自身を見失う事も多々あるのではないのでしょうか。

イギリスの歴史学者アーノルド・トインビー(一八八九〜一九七五)が、「現代人は何でも知っているが、自分自身を知らない」といわれたそうですが、今日の日本人はまさにその様な状況の人も結構いられる様です。

情報を鵜呑みにし、周りに流されたり時代に遅れまいと流行に追い回されたり、皆がやっている事と安易に流されたり、又生存競争に負けまいとつつ走りがちですが、時には立ち止まって、深く静かに呼吸をする事が大事ではないでしょうか。

うか。この止まるというところで、今迄の生き方が人間として間違っていないか、人間にとって大事なことは何なのかと自己反省をすることが出来ます。

禅の基本である坐禅はまさに止まる姿勢であり、自分を見つめる眼を育ててくれます。よく坐禅は無我・無心の境地といわれますが、私共はややもすると我利・我欲で心が詰まってしまう。一度心を空っぽにすることが出来るならば、何にでも自由に対応することができ、本来の自分を出し切れ、何よりも心が安らかになるのではないのでしょうか。姿勢を正して、深く静かな長い息に調え、心静かなひと時を持ち、周りに流されない自分を持ちたいものです。皆様にも坐禅を是非経験して頂きたいと思っております。

あんじんりゅうみょう しょうしよくこまや
安心立命別に地なし、雲散ずる秋天秋色濃かなり

【大本山總持寺 雲水日記】

一日も早い復興を願って

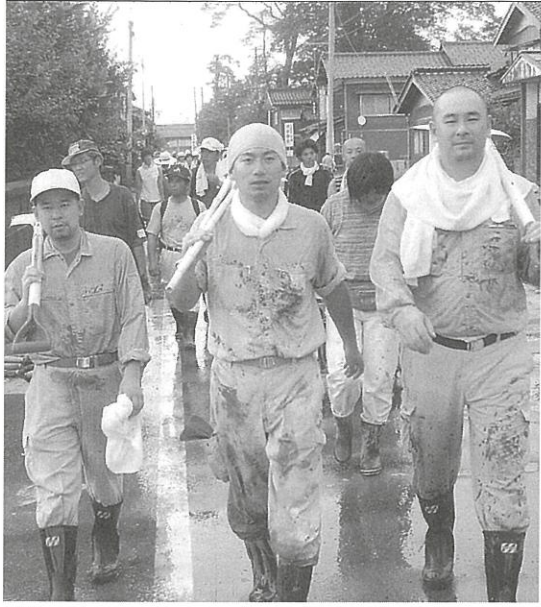
近藤真弘

今回の転役で堂行寮(どうあんりょう)の拝命を頂いた

直後に、緊急会議があるという事で東北・北信越の代表が呼ばれました。何の会議だろうと行ってみると、そこでは七月十三日に起こった新潟の豪雨災害のボランティアについての話し合いが行われていました。私が行った時にはすでに本山から修行僧を何人か現地に送り込む旨、きまっていた

のですが、その人選をしているところでした。

新潟の大雨のことは新聞などで知っていました。本山で修行中の身であり、大変だなあと思っているくらいでした。ましてや自分にかかるとは思ってもいなく、そこに本山側から出たボランティアの話、こんな機会を与えてもらえるのなら是非行って少しでも手伝いがしたいと思いました。



結局、新潟入りするメンバーは今、本山にいる新潟県人四人を含めた十八名に決まりました。メンバーが決まるとその日の内に必要な作業着、長靴などを購入し、翌朝六時半に車三台で總持寺を出発しました。

本山で役寮をされておられ、今回も引率として一緒に参加された見附の天徳寺様を本拠地として宿泊させていただくことになり、到着した私達十八名は曹洞宗第一宗務所の災害ボランティア本部に名前を登録し早速中之島の被災現場に向いました。

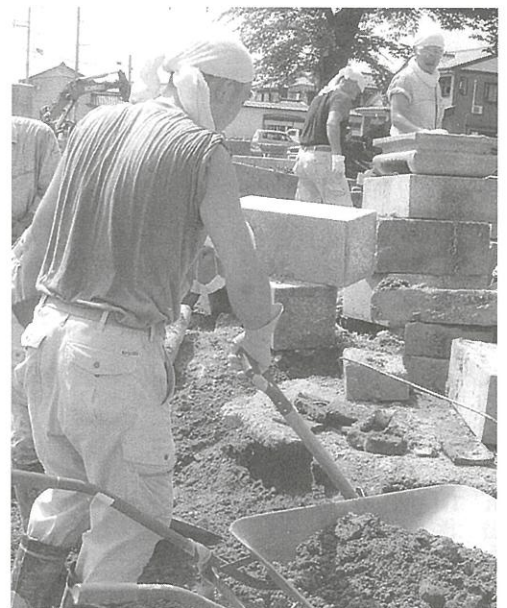
実際に現場に行くまでは豪雨の日から一週間経過しているし、道中目立った被害現場もみられなかったのもう大方復興は終わっていてボランティアの募集も打ち切ったのではないかと思っていました。

しかし現場を見る前にボランティア専用の駐車場に

着いた時、そこに止まっている車の多さに驚きました。バスや乗用車など駐車場に止めきれない位でそれを見て改めて今回の豪雨の被害がただ事でないと実感させられました。

結局この日はボランティアセンターの受付が終了しており、本格的な作業は翌日からということで、被害現場を一通り歩いてみて廻ることになりました。しかし実際に現場を歩いてみると、そこは素通りできるような状態ではなく、十八名はあちこちで足を止めて作業に加わっていました。主な作業は雨と一緒に流れてきて積みもった泥を土嚢袋に入れて取り除くというものでしたが、力のいる仕事でその日は約二時間で終了したにもかかわらずみなへとへとになってしまいました。

翌日から私達は三班(中之島・三条・見附)に分かれ



行動することになりました。各地区にはそれぞれボランティアセンターが設置されており、朝九時から受付がはじまるので登録を済ませそこで指示された作業場所、民家であったり工場であったり内容もいろいろでしたが、作業が終わる夕方四時までみな黙々と泥まみれになりながら作業を続けました。なれない作業のうえ毎日炎天下の日が続く色は隠せずにはいました。

しかし、微力ながら復興の手伝いをさせていた私達に對して現場での感謝の言葉、總持寺から私達がボ

ランティア活動をしているのを知った県内外のご寺院や地元住民の方から頂いた励ましの言葉等々、とても有難く励みになりました。一週間という活動期間を終え、本山での修行生活とは違う辛さもありましたが、終わってみると充実感と共に、人と人が助け合う上での多くのことを学ぶ事ができました。

このような機会を与えてくださった本山を始め今回の活動で励ましてくださった方々に感謝すると共に、被害にあわれた地域の皆様には一日も早い復興を願いたいと思います。

大切な水もときには凶器に

集中豪雨水害とボランティア活動

翠巖龍弘

日本は列島に背骨の如く山脈が連なるため、河川も多く、四季があり、冬には雪という形で膨大な量の水が山々に貯蔵され、梅雨、台風などで雨も多く、水に恵まれた国であります。

人間は水を飲むだけで一週間から一ヶ月くらいは生きる事が出来るそうです。逆に水無しでは地球上の総ての生物が生きていけません。

暑い夏の夕立が涼を運び、降雨によっての水が大いに恵を与え、田畑を潤し、あらゆる生命に恩恵を与えてくれます。

しかし、今年の七月十三日の中越地方を襲った集中豪雨では、恵みの雨が凶器と変わり、十五人もの尊い生命が奪われ、家や道路、田畑等々に多大な被害をもたらした。未だ普段の生活に戻れない人が多数おられます。生命にとって、生活にとつ

て、文化にとつても大切な水も、集中豪雨からなる洪水となると、山林・田畑・家等々に膨大な傷痕をのこし、長年培ってきた努力を台無しにし、財産や尊い生命までも奪い去ってしまいます。

洪水の後には、膨大な量の泥やゴミなどをのこし、水を含んだ畳は百キロを超える重量にもなり、冷蔵庫・洗濯機など、普段の生

活に必要な物も全部駄目になり、被災地の方々の生活は想像を絶するほど厳しいものであり、気持ちも落ち込んでおります。

阪神、淡路大震災の時から日本におけるボランティア元年と言われるしておりますが、今回の水害の後、県内をはじめ、県外からも多くのボランティア活動の参加がありました。



自分がその立場だったらとの参加者や、他人の困っているのを黙って見ておれないという人々や、義援金としての協力をされた方も大勢おられました。誠の布施行であり、老若を問わず日本人の慈悲心の現れではないでしょうか。

肉体的、精神的応援は、被災地の人々に大きな励みとなり、今後への希望、生きる力のもととなると思います。

東京の世田谷学園の中部の先生・生徒合わせて十数名が、本来ならば長野県での研修合宿の予定を急遽ボランティア合宿に振り替えて、七月三十日～八月三日まで参加したいということで、安善寺を宿泊地とすることにしました。生徒にとつても貴重な経験になったようです。少しでも他の人々の役に立つことの出来た充実感からか、良い顔をして元気で帰京しました。ただ、八月一日

は研修のため、朝七時から長岡空襲犠牲者供養祭に参列し、また、盆参の施食会法要の勉強ということで、写真のように全員で随喜していただけ、毎年二、三人での法要が、今年は大勢での大法要になり、参詣者にも大変喜ばれました。

今回のことで、なにか大きなものを自分では得たと感じています。それもこれも全て安善寺さんの協力があったこそだと思っています。本当にありがとうございました。

世田谷学園中学三年 稲垣 了禪



【ボランティア参加者からの手紙】

この間は本当にありがとうございました。今回、普段体験できないようなことを体験することができました。また、食事もとてもおいしかったです。

先日の世田谷学園の叢林生活では大変お世話になりました。OBとして参加いたしました。初めての経験であり、とても有意義な時間でありました。

これは安善寺様が、我々に生活の場を提供して下さり、食事などの提供があったことにより実現いたしました。大変ありがとうございます。今後は、この体験を僧侶として、学生として生かしていきたいと思えます。残暑厳しいですが、ご健康にご注意されますようお願い申し上げます。

埼玉県・幸福寺内 小田原 明秀

愛の日の丸

長岡市●酒井美与吉

去る六月十九日、長岡リッックホールで、吉運堂主催の文化講演会が開かれ、主催者の吉田社長、長岡仏教会会長の春日師の挨拶の後、車椅子に座乗した講師、長野市の円福寺愛育園理事長・藤本幸邦師登壇。演目は『日本人のこころ―人間とは何か』。(紙面の都合で、ご主旨を摘記させていただきます。)

一、道元禅師は『生死は仏の計らい』と諭されましたが、私は今九十四歳。どうしてこんなに長生きして

いるのか、今日皆様にお話するために生きてきたのでしょうか。

二、日本人とは何だと思いませんか。この国は古代豊葦原瑞穂の国と呼ばれ、人々は米作りの民で、太陽の恵みによって生きること

を悟り、太陽を神として崇めました。

外国では、神は天にあると信じますが、その神は見えない神です。日本人は目に見える神として太陽を拜

みます。

太陽は地球の母です。すべての衆生は親孝行しなくてはなりません。日本の最高の神は、天照大神です。(日の丸の国旗を広げて) さあ、皆さん、これが世界で最も美しい国旗です。

三、私は日本の僧侶です。私は日本を愛します。川端康成は『美しい国日本』を書きましたが、私たちは、この国に生まれ、四季折々の美に感動すべきです。

四、『朝顔に釣瓶とられてもらい水』(加賀の千代) この優しい思いやりこそ日本人の心です。この心は単に植物への愛情ではなく、万物、万人への愛情です。

五、日本人はすべて祖先を有難く思う心を持っています。日本は世界で最も古い―二千五百年も続く王朝(皇室)を戴く国民であることを誇りとしましょう。我らは祖先の子であり、孫です。やがて我らも祖先となります。

六、日本人の家庭には神棚と仏壇があります。聖徳太子が、神道と仏教両立の道を開かれたからです。

七、広島島の原爆犠牲者慰霊碑に『安らかに眠ってください。過ちは繰り返しません』と刻まれています。どうして日本は負けたのでしょうか。戦争したから負けたのです。これからの日本は絶対に戦争してはなりません。

八、人間には、良心とい

九、みんな仲良くみんなのために。世界は一つ、大きな家族、地球は一つ、お日さま一つ。

十、愛を以って世界のためにつくしましょう。日本人は『愛の日の丸』を掲げ、新世紀の世界平和のために起き上がれ!(講師の先導に従い、全聴衆五百人、国歌斉唱)



約二時間、活力溢れる熱弁で、満堂の聴衆に深い感動を与えられた。合掌

お別れ

小林 保様 七月五日寂

長岡市中島

飯田貞雄様 七月十三日寂

長岡市今朝白

白井虔一様 八月廿七日寂

長岡市中貫

ご冥福をお祈り申し上げます。

奥の正法寺参拝とみちのくの旅 (二)

鈴木タマエ

農場を後にしてすぐ近くの盛岡手づくり村へ立ち寄る。ここは地場産業の振興を図るための施設であり、中には展示即売室、資料室(南部鉄器、ホームズパン、漆器、地酒、染物)があり、手づくり工房、百五十年前の農家を復元した曲り屋のゾーンがあった。

源義家が馬をつないで湯にひたつたと云う故事から名付けられたという宿泊地のつなぎ温泉に向かう。温泉のよいお湯にひたり、気持ちよくゆつたりと旅の疲れを癒しました。

「奥の正法寺」の名で広く親しまれているこのお寺は、一三四八年無底良紹禪師によつて開創され、奥羽二州の本山として発展したが、江戸幕府の政策により曹洞宗本山としての格式を失った。しかし仙台藩から格別の待遇を受け、現在は七十二の末寺を有し、新潟県にも

一寺末寺があるそうです。農工商の差別を無くすということで50×60センチの石を何枚か交えて積んだ石段を難渋しながら登り、山門をくぐると本堂。参拝は勿論ですが、大きな目的の日本一の茅葺屋根の本堂の見学が、屋根修復中で大きなシートに覆われており、三十五億の巨費を投じ、終了する平成十八年以降でないと拝観できないということであり残念であった。本尊は仮に庫裏に安置されておられ、住職不在のため末寺の住職により丁寧な法話説明をお聞きした。庫裏内、法仏殿の見学をさせていたのだが、さすが歴史と格式の高い寺院の尊像、宝物と感嘆する。本堂も大きいのが、庫裏・庭園も壮観を極めるものであった。

たとえられる江刺市岩谷堂に開かれた歴史公園であり、政庁、町並み、金色堂、伽羅御所ゾーンに平安時代の建築百十七等が並んでいるとのこと。NHK大河ドラマの「炎立つ(ほむらたつ)」のロケ地で、その後も多くのテレビ、映画のロケが行われているという。見学は政庁、伽羅御所、金色堂のみに止まったが、時代考証の素晴らしさに感嘆する。奥の正法寺の参拝を終わり、次は最終コースの中尊寺に向かう。中尊寺参拝を前に、昼食を摂る。今日のメニューは餅。平泉地方は穀倉地帯で餅文化圏ともいわれ、餅を食べる習慣があるということ、わざわざ昼食に餅を選んだとのこと。おいしくいただいた。昼食後、中尊寺に向かう。讚衡藏(さんこう)の下までバスで、それより少し坂を登る。讚衡藏は平安時代



である金銅などの金工品をはじめ、高さ二六六メートルの座像、六仏など、中尊寺に伝わる国宝、重文など三千点以上収蔵しているとのこと。藤原文化は九百年

以上前であるが、当時の黄金文化、技法には感嘆せざるを得ない。

続いて中尊寺創建当初の唯一の遺構である金色堂を参拝する。金色堂はその名のごとく絢爛な輝きを放つ宝形造りの阿弥陀堂のことであるが、現在は雨露を凌ぐため覆堂内にあった。この堂は日本の国宝指定の第一号でもある。元治元年(一一二四)藤原清衡が建立。

黒漆で塗り固め、金箔を押し、七宝の巻柱に螺鈿、珠玉をちりばめ、透かし彫りの金具、漆時絵等々と堂内は精巧な工芸品そのもの。阿弥陀三尊、六地藏、持国、像長天をまつる須臾檀の下には藤原氏初代の清衡、二代基衡、三代秀衡のミイラ化した遺体と四代泰衡の首級ミイラが安置されている由。

金色堂を少し登ると、俳人松尾芭蕉の「五月雨の降りのかしてや光堂」のがある。近く「毛越寺(もうつうじ)」には「夏草や兵どもが夢のあと」の芭蕉直筆の句碑があるという。

杉木立を進と中尊寺。門前

より手を合わせて更に進と展望台がある。北上川衣川、国見山の眺望を目の前に歴史、遺跡などについて耳を傾ける。それより月見坂を下り出発点へ。月見坂を下った手前には「武蔵坊弁慶碑」が立っており、その後ろにある六十センチ程の五輪の塔が墓であるとのこと。

以上で今回の行程はすべて終わったが奥入瀬、十和田湖の自然美の美しさと、素晴らしさ、牧場の牧歌的などかな風情、藤原氏の黄金文化、それを支えた技法、工法、現代人の時代考証への執念というか実行力等々に感動と驚嘆を寄せられ素晴らしい旅でした。

あまりにも見所多彩で、切り捨てるところなく感動し続けて目にはつきりと焼き付き、またガイドさんの淡々と話される様子には大変頭の切れのよさを感じさせられ、本当に目を丸くして聞き入っていました。思い出多き良い旅でした。安善寺様、旅行会社にご感謝しつつ、ありがとうございました。

読者からの便り

感謝の気持ちをもって、悔いのない一生を送りたい

新津市草水町 ● 中野健一

昭和十八年と十九年生まれの私達夫婦は、六月末に月岡温泉「ホテル華鳳」にて、二人の娘夫婦と三人の孫に囲まれて、還暦を祝ってもらいました。

平均寿命が八十歳を越えている中で、この世に生を



境内の落ち葉を集めてる中野さんの奥様

いただいで六十年間、健康に恵まれ、無事生きてこられたことへ感謝し、産み育

てくれた両親と、独り立ちして以降の多くの知人、友人に改めて感謝する機会を与えてもらい、共に感謝いたしました。

夫婦になつて三十六年間、立派な会社に採用していただき、今も現役役員として勤務させていただいていることへの感謝。私達夫婦はすべてに感謝することばかりです。

歳を重ねて行く度に、親の年齢に近づくこの頃、安善寺さまのお墓を守るようにと、遺言して逝った父から引き継いで四年目のお盆を迎え、お盆を前に一段と力を込めてお墓をきれいに磨いてあげたいと思います。

還暦記念に娘に、私と妻の思い出を書き残しました。子供の頃、祖母・祖父父母、そして両親から聞いたことや、自分が記憶している思い出を、そして、これからの自分たちの生き様を想像しながら、十分ではありませんが書いてみました。書き足りない、伝えないことを思い出しては加筆していくつもりです。

また、双方の先祖、兄弟、姉妹、親戚、親類との繋がりも出来るだけ詳しく書き記しました。

お盆のお墓参り、仏壇参りは、ただ単に形を言うのではなく、今あることの幸せを、亡くなられた両親、兄弟、そして祖先に対して感謝する気持ちを報告することだと私は思います。

これからの人生は折り返し点。悔いのない一生を送るために、さらなる感謝の気持ちを持って日々を送りたいと思います。

ペコちゃん、いつまでも元気でね

長岡市水道町 ● 渡辺督子
残暑お見舞い申し上げます。写経会の皆様お元気で過ごせると存じます。

いつも季刊紙を拝見しております。特にペコちゃんのみひとりごとは毎回楽しく読ませていただいておりますが、私共に十九年間家族同様に過ごした猫が亡くなり、いまだに悲しみが消えません。

我が家の猫はミーと申し



ます。私達を十九年間癒してくれましたが、こんな存在感があると思いませんでした。三月二十八日に亡くなり数ヶ月が過ぎましたが、部屋の中は写真やら、ねこの置物が並んでいます。ペコちゃんの元気な写真を拝見して嬉しく思います。どうぞ、いつまでも元気で安善寺様のマスコットとしてお過ごしください。

私も足の手術より五年間が過ぎ、やっと五分ほどの正座が出来るようになりました。朝夕、土手を散歩して足を鍛えています。

東京のお盆の一体さん

東京都足立区 ● 吉田 稔

東京のお盆は七月です。先日、安善寺さんの真弘雲水さんにお盆のお参りに来ていただきました。

まだあどけなさの残る僧の姿の二年前にお見えになった時より、なんとたくましく、立派になられて驚きました。鶴見の總持寺での生活のお話を楽しく聞かせていただきました。

(次頁へ続く)

二年前にお参りに来られた時に、私の家から次の家へ行く道路で、近所の方や通行人の方など皆さんが立ち止まって「一休さんみたい」と言いながら、姿が遠くなるまで見ている人が大勢いました。私もそれを見て、何か良いことをしたような気持ちで、心が洗われました。本当に姿がすばらしく、ありがたく思っています。

**亡夫法要で
越後の縁と稲田を眺め**

仙台市●佐藤ふきこ

ご無沙汰いたしました。お聞きす。今回の水害では、長岡も北日程ではないと存じますが御見舞い申し上げます。

安善寺様の季刊紙を頂きまして早速拝読いたしました。方丈様はじめ奥様、御長男、それにスタッフの方々、檀家の皆様の御心の籠もりました濃密な内容のお便り、もう少し近ければと残念に思いながら楽しんでいたり、関心いたしました。本当に有り難うございました。

去る六月三日、亡夫「徳正院寛浄義典居士」の七回忌



法要の際は色々お世話になりました。丁度男孫が帰省いたしましたところへ快晴に恵まれ、越後の縁と稲田を心ゆくまで眺めさせていただき、美しくお掃除されました墓地、そして樺の切られた後のお地藏様も拝ませていただき、ご先祖様も亡夫も、安らかに眠らせていただいておりますのを目の当たりにいたし、感慨無量でございました。早速御礼状をと思いが、五月・六月の短歌会の当

番で失礼いたしました。おわび申し上げます。下手な短歌をお礼のおしるし迄に、恥を忍んで書かせていただきます。

み祖のさと 越後平野は何処までも 稲田の緑
果なく続く
訪はざりし 歲月おもひ
息子と男孫 み祖の墓の
苔落し合ふ
舅の言葉に 傷つきしこ

とも 時を経て
半ば肯ひ 墓に合掌はず

戊辰戦争 長岡空襲に
寺守りし 樺大樹の
命果てたり

戦ひに 寺を守りし
樺枯れ その切株に
地藏祀らる

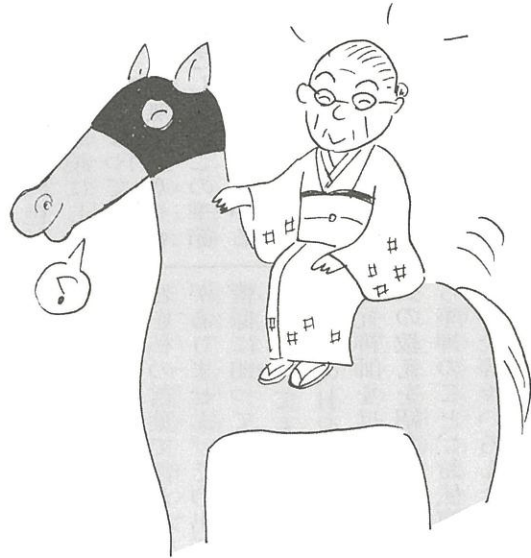
寺近き 信濃川
畔の月あかり
死者もうからも
あまねし 照らす

加瀬様のエッセイ「別れのワルツ」を思い出し、恥ずかしながら私(八十三歳)も、冬のソナタにはまつております。
好きな人の 心が素敵な家と言ふ「冬の恋歌」に老もときめく

(お笑いまでに)

御開帳の 賑はひ終わりに
灯も消えし 無住寺は
ビルの谷間に鎮む
(近くの観音様)
おわびかたがた御礼まで。

遠き良き時代を想い...
東京都板橋区●那須紀伊子
少し古い話になります
が、競走馬の春うららが追い越されて一番最後から懸命に走る姿を見て、馬主さんでしようか、「負けてもいい、無事に戻って来てくれればそれでいい」と言われていたことをテレビで見



て、遠い昔の母を想い出しました。
息子を叱る私に、「タケシが叱られると身も世もない、息をしていてくれるだけいいじゃないか」と、切なそうに訴えた顔を思い出しました。

参りに参りたいと思います。遠き良き時代と、孫への深い愛だけで彼岸に逝った母を想い出し、初めてお便りを書きました。
その息子も、もう四十八歳になり、私も母の逝った年に(七十八歳)なります。

何でも一番に、トップにと、人を押しつける今の世の中、けなげな春うららの姿を見て、原点である一番大切なことを思い出させてくれたような気がしました。その母も、今年は二十三回忌を迎えます。
安善寺様に御供養をお願いして、母の宝と一緒に墓

ペコ大蔵日記

パートII

ボランティアの中学生が来た：

ペコのひとりごと

今年の夏はまさに酷暑でした。お寺では二番目のお兄ちゃんが社会人になってからはお盆にも帰れなくなり全員揃う事がなくなりまして。少し淋しいけれど元気で頑張っているようで住職もお母さんも安心していらっしゃるようです。

私はというと体力の消耗を防ぐためにどうしたら良



いのか考えあぐねた末に壁と箆筒の本当に私が入るのがやつとくらしい場所を見つけてそこに入り込んでジーとしていました。

「ペコ見かけないけど何処へ行ったんだらう？」と言う声が聞こえているのですが、暑くて動けないのです。さくらはクーラーのきいた部屋で幸せそのものの

ようでした。私は前にもお話ししたようにクーラーは苦手です。

そんな暑さの中、お母さんがいきなり普段使っていない奥の部屋の方からお掃除を始めました。やはり暑いため休み休み時にはクーラーをつけて・・・そのうち古い洗濯機と冷蔵庫が運ばれてきました。東京の中学生が急遽、七月に新潟地方を襲った豪雨のボランティアに来るとのこと、宿を引き受けることになったのだそうです。

冷蔵庫と洗濯機を持ってきてくださった電気屋さんもボランティア、貸し布団も「こんな事で使うのならと普段は病院関係にしか出さないけど」と格安の値段で・・・現地に出向くだけボランティアじゃないんですね！今回身近で災害があつて始めて解かりま

したけれど、目立たないところで本当に多くの人々の支えがあるということ、そして携わっている人々がなんと素敵な顔をしていることも・・・そんな中まだ幼い感じの中学生がやってきました。

早速手を洗って手伝った仕事がお昼の盛り付け、冷やし中華にのつた具はおよそお母さんが想像していたのとは違う盛り付け。「ちゃんと見本を作ってみせるのに・・・」。先が思いやられるスタートだったようです。ニヤーン

この法事は本来お釈迦様の教え、仏様の心を知るということでしたが、次第に仏事儀礼、行事、故人への追善供養を勤めることが法事と呼ばれるようになったそうです。供養とは仏様に

編集 雑感

夏の初めには三条・見附・中之島の地域、長岡の浦瀬地区等で集中豪雨が

り、また、全国の各地にても集中豪雨や台風が多発し、そのため被害に遭われた皆様には心よりお見舞い申し上げます。

その暑い夏も稲穂の色付きと共に、彼岸を境にした夜長と共に秋となつてゆきます。暑くも無く、寒くも無い、過ごし易いこの季節に法事を予定されている方もおられるでしょう。

この法事は本来お釈迦様の教え、仏様の心を知るということでしたが、次第に仏事儀礼、行事、故人への追善供養を勤めることが法事と呼ばれるようになったそうです。供養とは仏様に

飲食やお花をお供えし、読経をすることによって、善根(善い行い)の功徳を積むことで、功徳を回向(えこ)うたむけること)することによって、ご先祖様、故人、すべての人々の冥福を祈り、仏道を成就することを願うものといわれます。

あなたも凄いことを編集後記に書かれますねと言われそうです。私がおんなこととを私の言葉で言えるわけがありません。その出所を皆様に知って頂きたいので引用させてもらいました。曹洞宗のHPがあります。道元禪師をはじめ仏教の偉人の教えを紹介する漫画から座禅のこと、お仏壇の祭りかた等々いろいろな事が学べます。是非一度覗いてみてください。

(http://www.sotozen-net.or.jp) 今回の季刊紙には多数の投稿を頂き有難うございました。これこそが檀家の交流の場だと思えます。引き続き投稿をお待ちしております。

お便り原稿用紙

季刊誌では、壇信徒・読者の皆さまと、ごいっしょに誌面をつくりながら、コミュニケーションを深めたいと思います。ハガキまたはお手紙、ファックスなどで、お気軽にお便りをお寄せください。お待ちしております。

原稿の例

- 思い出話／ご家族、ご先祖、お寺の思い出話など。
- 私に言わせて／家事や子育てのお話、身近な出来事など。
- 教えてください／仏事のしきたりや疑問(編集部や住職がお答えします)など。
- 嬉しい・楽しい／嬉しかったこと、楽しかったこと、悲しかったこと。

(高橋 潔)

第二十八号、新年号は平成十七年一月一日(土) 発刊予定です。